

# 介護福祉士養成施設に在籍する学生に対する国家試験対策講座 —人間と社会の領域を中心として—

鶴和也<sup>1</sup> , 藤島法仁<sup>2</sup> , 吉村浩美<sup>1</sup> , 馬場由美子<sup>1</sup> , 立川かおり<sup>1</sup>

(西九州大学短期大学部 地域生活支援学科<sup>1</sup> , 長崎短期大学 地域共生学科(研究当時)<sup>2</sup>  
福山平成大学 福祉学科(現職))

(令和5年12月25日受理)

Preparatory Course for the National Examination for  
Students Enrolled in Care Worker Training Facilities  
— Focusing on the Field of Human and Social Sciences —

Kazuya Tsuru<sup>1</sup>, Norihito Fujishima<sup>2</sup>, Hiromi Yoshimura<sup>1</sup>, Yumiko Baba<sup>1</sup>, Kaori Tachikawa<sup>1</sup>

(Department of Local Life Support Sciences, Nishikyushu University Junior College<sup>1</sup>,  
Department of Regional Symbiosis, Nagasaki Junior College (at the time of the research)<sup>2</sup>  
Department of Welfare, Fukuyama Heisei University (current position))

(Accepted December 25, 2023)

## Abstract

This study is one of the initiatives based on the comprehensive collaboration between Nishikyushu University Junior College and Nagasaki Junior College. It involves a compilation of a series of lectures given by faculty members specializing in Human and Social Studies at Nagasaki Junior College, targeted at second-year students of the Care Welfare Course at Nishikyushu University Junior College, focusing on preparing for the Certified Care Worker National Examination.

As a result, many students found the lectures to be beneficial, and the overall effectiveness of the course received generally positive evaluations. However, the results also highlighted several areas for future consideration, such as increasing the number of lectures, implementing them earlier, and the preference for conducting them face-to-face.

Key words: 介護福祉士国家試験対策: Care Worker National Examination Strategies  
人間と社会の領域: The Field of Human and Social Sciences

## 1. 研究背景と目的

我が国の65歳以上の人口は、3,624万人となり、総人口に占める割合も29.0%となった<sup>1)</sup>。また、要介護または要支援の認定を受けた人は、令和2年度で668.9万人となっており、平成22年度(490.7万人)から178.1万人増加している<sup>2)</sup>。高齢化率や要介護者数が増加する中、介護福祉士養成施設には、ニーズの多様化、高度化に対応できる質の高い介護福祉人材の育成が求められている。しかし、要介護者の増加により、介護の人材不足が深刻な問題となっている。そのため、我が国では、介護人材不足の対策として、介護職員の処遇改善、離職防止・定着促進などに加え、外国人の介護人材確保に向けた取り組みが行われている<sup>3)</sup>。

このうち、外国人の介護人材確保については、平成29年から介護福祉士を目指す外国人留学生が、入国後、介護福祉士養成施設に入学し、介護福祉士の資格を取得して日本国内で介護福祉士として就労することが可能となった。日本介護福祉士養成施設協会の調査では<sup>4)</sup>、平成26年度の介護福祉士養成施設の外国人留学生数(以下 介護留学生)は、17人であったが、令和2年度の外国人留学生数は2,395人と増加傾向にある<sup>4)</sup>。

介護福祉士養成施設に入学する介護留学生の増加にともない介護福祉士国家試験の留学生受験者も増加している。しかし、第30回試験(平成30年1月実施)の介護留学生の合格率は41.4%、第31回試験(平成31年1月実施)の合格率は、27.4%と低い推移をたどっている<sup>5)</sup>。また、桑迫らによる介護福祉士国家試験を受験した福祉専攻科の学生76名を対象とした国家試験についての研究によると、「国家試験受験後の自己採点で最も正解率が低かった科目として、医療的ケア・総合問題・社会の理解の3つの科目の割合が多かった<sup>6)</sup>」と報告している。本学が国家試験後に学生に実施しているアンケートでも同様の結果がみられた。特に「社会の理解」に関しては、日本人・留学生共に正答率が低い状況である。この「社会の理解」の科目は、介護福祉に関する法律や制度などに関する範囲であり、超高齢社会の多様なニーズや高度化に対応できる質の高い介護福祉士を育成するためにも、「社会の理解」の知識を高めることは重要であると考えられる。

本研究では、介護福祉士養成施設に在学し、介護福祉士を目指す学生に対し、介護福祉士国家試験の「社会の理解」を含む人間と社会の領域(人間の尊厳と自立、人間関係とコミュニケーション、社会の理解)に焦点をあてた国家試験対策を行い、その教育方法と国家試験対策の進め方についての課題と解決方法等を検討することを目的とする。

今回の取り組みは、長崎短期大学(以下 長崎短大)と西九州大学短期大学部との包括的連携に基づく取組みの1つとして、令和4年10月～令和5年1月の期間に長崎短大

の人間と社会の領域を専門とする教員による介護福祉士国家試験対策講座を実施していただいた。授業評価や授業分析の一環としてアンケートを実施した。本研究は、その取り組みやアンケート結果をまとめたものである。

## 2. 研究方法

### 1) 研究対象者

令和4年10月～令和5年1月の期間に長崎短大の人間と社会の領域を専門とする藤島教授(以下 藤島)による介護福祉士国家試験対策講座(以下 対策講座)(対面とZOOMの併用)に参加した西九州大学短期大学部の介護福祉コース(以下 西九州短大)2年生43名(日本人9名、留学生34名)を対象とした。

対策講座にあたり、主に講座の実施は長崎短大藤島が実施し、講座の調整や学生への説明、資料準備、Zoomのセッティング、対策講座時の授業補助、学生への意見聴取等は、西九州短大鶴助教(以下 鶴)や西九州短大のその他の教員が担当した。

対策講座に参加した43名に対し、西九州短大鶴が対策講座の主旨と目的を口頭にて説明した。対策講座についてのアンケートは、対策講座の前後に実施した。アンケートは、任意であって強制ではないこと、アンケートの提出をもって研究に同意したものとみなすことを説明し、アンケートの提出があったものを研究対象者とした。留学生に関しては、アンケートの質問について、1度の説明で理解が難しい場合は、学生が理解できるまで繰り返し説明をおこなった。

### 3. 倫理的配慮

参加者に研究の趣旨、方法、個人情報保護、参加の自由を口頭にて説明を行った。また、アンケートについては、回答は任意であることを説明した。アンケート内で研究同意の有無の確認を行い、同意をえたものを研究参加者とした。研究に同意をえられなかったもの、意思確認が出来ないものは研究対象から除外した。本研究は、西九州大学短期大学部倫理委員会の承認を得て実施している(承認番号23NTD-06)

### 4. 研究期間

令和4(2022)年10月～令和5(2023)年3月。

### 5. 結果

#### 1) 経過報告

表1に対策講座の経過を示す。

令和4年9月30日に学生との顔合わせと講義の趣旨説明をZoom形式にて行った。第1回講義(10月20日)は対面形式で行い、第32回の国家試験(2020年実施)の問題解説(前半部分)、および本講義に対する事前のアンケートを実施した。第2回講義(11月17日)、第3回講義(12月15日)、第4回講義(令和5年1月12日)は第32回国家試験の後半部分、第33回および第34回の国家試験の問題解説をZoom形式で行った。テキストとして介護福祉士国家試験過去問解説集2022を使用した。

表1 国家試験対策講座(社会の領域)の経過

| 実施日        | 内容  |
|------------|---|
| 令和4年9月30日  | 学生との顔合わせ、本講義の趣旨説明(Zoom)。今後の対策講座についての打ち合わせ |
| 令和4年10月10日 | メール会議にて、講義日程の調整や講義内容の検討を行う。               |
| 令和4年10月20日 | 講義実施前のアンケート実施。第1回講義(対面)。                  |
| 令和4年11月17日 | 第2回講義(Zoom)。                              |
| 令和4年12月15日 | 第3回講義(Zoom)。                              |
| 令和5年1月12日  | 第4回講義(Zoom)。                              |
| 令和5年2月7日   | 講義実施後のアンケート実施。                            |



## 2) 活動の様子

### 2-1) 長崎短大藤島と西九州短大学生との顔合わせ



### 2-2) 対策講座の様子



### 2-3) テキストに沿った対策講座(文責 藤島)

講座の目的は理解が難しいと考えられる人間と社会の領域の国家試験での得点向上と指導方法の検討にある。人間と社会の領域の問題は「人間の尊厳と自立」から2問、「人間関係とコミュニケーション」から4問、「社会の理解」から12問、計18問、全体(125問)に占める割合は多くない。人間と社会の領域の理解が難しいのは、とくに「社会の理解」において法律の名前などの専門用語が難解であること、専門用語に付随する、たとえば社会保障の「給付」や保険料の「拠出」などの用語も使い慣れる必要があること、そして、これらの用語が問題や選択肢に頻出するため全体的に漢字が多いことである。留学生にとって問題を理解する前に、問題に慣れる必要がほかの領域に比べ大きい。

そこで、解説では問題文と選択肢をゆっくり読み、一つひとつの語句を丁寧に解説することを心がけた。使用される語句は無数にあるわけではなく、3年分の過去問題(計48問)を通してよく使われている語句に慣れることを1つの目的とした。また、解説では体系的な理解を目指した。たとえば、社会保障は社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生及び医療を4つの柱とすること、介護保険は社会保険の1つであり、社会福祉の1つである老人福祉と関係をもって展開されていることなど、関連づけを心がけた。

### 3) アンケート結果

西九州短大の学生43名に対策講座の前後にアンケート

調査を実施(資料1-1、資料1-2)した。対策講座実施前のアンケートは、国家試験で難しいと感じている科目や現在の勉強時間、対策講座へ期待することなど、対策講座の内容を検討する目的で実施した。対策講座実施後のアンケートは、対策講座の効果や今後の対策講座の検討資料として実施した。対策講座実施前のアンケート回収率は88%、対策講座実施後のアンケート回収率は81%であった。

### 3-1)対策講座についてのアンケート(実施前)結果(文責 藤島)

学校の授業においてもっとも難しいと感じている科目(表2)は「人間と社会」24名、「介護」0名、「こころとからだのしくみ」5名、「医療的ケア」4名という結果であった(38名回答、うち未記入5名)。

国籍別にみると、日本「人間と社会」4名、「こころとからだ」2名、「医療的ケア」2名、インドネシア「人間と社会」1名、「こころとからだ」1名、「医療的ケア」1名、ミャンマー「人間と社会」12名、「こころとからだ」1名、ネパール「医療的ケア」1名、ベトナム「人間と社会」7名、「こころとからだ」1名、という結果であった。

だ」1名、という結果であった。概ねどの国の学生も「人間と社会」がもっとも難しいと感じているが、日本とインドネシアの学生は、比較的、難しいと感じている科目が分散しているのに対し、ミャンマーとベトナムの学生は「人間と社会」に集中している。

表2 国籍別「大学の授業でもっとも難しい」と感じている領域

|             | 日本 | インドネシア | ミャンマー | ネパール | ベトナム | 計   |
|-------------|----|--------|-------|------|------|-----|
| 人間と社会       | 4名 | 1名     | 12名   | 0名   | 7名   | 24名 |
| 介護          | 0名 | 0名     | 0名    | 0名   | 0名   | 0名  |
| こころとからだのしくみ | 2名 | 1名     | 1名    | 0名   | 1名   | 5名  |
| 医療的ケア       | 2名 | 1名     | 0名    | 1名   | 0名   | 4名  |
| 計           | 8名 | 3名     | 13名   | 1名   | 8名   | 33名 |

1日の勉強時間(表3)については、比較的、日本の学生が少ないのに対し(平日に「学習しない」4名、「1時間」3名、「2時間」1名)、ミャンマー(平日に「学習しない」1名、「1時間」3名、「2時間」5名、「3時間」4名)とベトナム(平日に「学習しない」0名、「1時間」5名、「2時間」1名、「3時間」1名)という結果であった。

#### 資料1-1 対策講座についてのアンケート(実施前)

1. あなたの性別を教えてください。( )

2. あなたの年齢を教えてください。( )歳

3. あなたの国籍を教えてください。( )

4. あなたの日本語能力試験(JLPT)のレベルについて教えてください。あてはまるものに○をつけてください。  
 入学したとき…N1 N2 N3 N4 N5 合格していない  
 現在…N1 N2 N3 N4 N5 合格していない

5. あなたが学校の授業の科目について難しいと感じる科目を教えてください。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。その中でも一番難しいと感じる科目はどれですか。  
 ア. 人間と社会 ウ. こころとからだのしくみ  
 イ. 介護 エ. 医療的ケア  
 一番難しい科目…( )

6. あなたは毎日自宅でのくらの時間、介護の勉強をしていますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。  
 授業のある日…学習しない 1時間 2時間 3時間 それ以上  
 授業のない日…学習しない 1時間 2時間 3時間 それ以上

7. 対策講座についてお聞きします。人間と社会の領域(人間の尊厳と自立、人間関係とコミュニケーション、社会の理解)においてどのようなことをしてほしいですか。

#### 資料1-2 対策講座についてのアンケート(実施後)

国家試験お疲れさまでした。国家試験対策講座のさらなる充実を求めて、以下の質問にお答えください。

1. あなたの国籍を教えてください。( )

2. 現在の日本語能力試験(JLPT)のレベルを教えてください。ア～カの中から1つ○をつけてください  
 ア N1  
 イ N2  
 ウ N3  
 エ N4  
 オ N5  
 カ 受験もしくは合格していない

3. 社会の領域の国家試験対策講座を4回実施しましたが(10/20、11/17、12/15、1/12)、あなたは何回参加しましたか。( )回

4. 講座を受けてみてどう感じましたか。ア～エの中から1つ○をつけてください。  
 ア.役に立った  
 イ.まあ役に立った  
 ウ.あまり役に立たなかった  
 エ.役に立たなかった

5. どのような講座にすればもっと国家試験の点数が上がりますか。ア～イの中から1つ○をつけてください。  
 回数…ア もっと増やした方がよい  
 イ 今のままでよい  
 時期…ア もっと早い時期がよい→( )月くらいがよい  
 イ 今回の時期でよい

どのような講座にすればもっと国家試験の点数が上がったと思いますか。下の空欄に自由に書いてください。

ご協力、ありがとうございました。

名、「それ以上」1名)は多いという結果であった(インドネシア、ネパール、スリランカの学生については数が少なく未記入が多かったため割愛する)。このことから、ミャンマーとベトナムの学生は勉強しているが、「人間と社会」の領域の理解は難しいことが分かる。

表3 国籍別の平日の学習時間

|       | 日本 | ミャンマー | ベトナム | 計   |
|-------|----|-------|------|-----|
| 学習しない | 4名 | 1名    | 0名   | 5名  |
| 1時間   | 3名 | 3名    | 5名   | 11名 |
| 2時間   | 1名 | 5名    | 1名   | 7名  |
| 3時間   | 0名 | 4名    | 1名   | 5名  |
| それ以上  | 0名 | 0名    | 1名   | 1名  |
| 計     | 8名 | 13名   | 8名   | 29名 |

講座に対する期待としては「法律、制度などを理解したい」「福祉用具の制度」「知識が身につくような授業」「分かりやすくしてほしい」(日本の学生)、「介護保険について理解したい」「日本の法律は分かりにくい」「やさしい言葉で教えてもらいたい」「分かりやすい覚え方を知りたい」「意味と言葉を理解したい」(ミャンマーの学生)、「人間関係とコミュニケーションについてもっと知りたい」(インドネシアの学生)という意見があった。法律と制度を理解できる教え方とそれらを覚える方法に対するニーズがある。

### 3-2) 対策講座についてのアンケート(実施後)結果(文責 鶴)

国家試験対策講座に参加した学生は43名であり、うち35名から回答があった。

参加者の内訳は、日本人9名、留学生34名(ミャンマー16名、ベトナム8名、ネパール5名、インドネシア3名、タイ1名、スリランカ1名)であった。留学生の日本語能力は、N4 1名、N3 18名、N2 11名である(アンケートに回答のあったもののみ記載)。

対策講座への参加回数は、全4回の講義のうち平均3.5回参加しており、ほとんどの学生が、ほぼ毎回参加していた。

対策講座を受けてみてどうだったかのアンケート項目では、「役に立った」と回答した学生は86%、「まあ役に立った」と回答した学生は14%であり、国家試験対策講座が、学生にとって効果的な取り組みであったことがうかがえる。

対策講座の回数(全4回実施)については、「今のままでよい」と回答した学生は51%、「もっと増やしたほうがいい」と回答した学生は43%であった(未回答者2名)。「今の

ままでよい」「もっと増やしたほうがいい」の意見は、半々であり、国家試験対策講座の回数については、今後、検討をしていく必要がある。

対策講座の時期に関するアンケート項目では、「もっと早い時期がよい」と回答した学生は43%、「今回の時期でよい」と回答した学生は51%であり、対策講座の回数と同様に意見が分かれる結果となった(未回答者2名)。また、対策講座の希望時期では、3月や4月(2年生前期の時期)からの実施など、より早い時期を希望する意見がみられた。今回の対策講座は、10月中旬から1月中旬(2年生後期の時期)の実施であったが、もっと早い時期での実施を望む声も多く、開催時期についても今後検討していく必要がある。

自由記述では、「そのまま(今の対策講座の内容)で大丈夫です」などの意見がみられる一方で、「ちょっと大きな声で話してほしい」「対面授業がいいと思います」「オンライン授業より対面授業の方がもっといいと思う」などの意見も見られた。今回の対策講座は、全4回のうち3回はオンラインでの実施であった。対面での対策講座を望む学生もおり、今後、実施形態の検討が必要である。

その他の意見としては、「外部の先生の講座は、役に立ちました。知識が増えたので間違い選択を消せました。講座の回数が増えたら点数が上がってくると思います」など、対策講座の回数が増えることで、点数が向上できる可能性があると期待する意見も見られた。

## 4. 考察・まとめ

### 1) 考察・まとめ(文責 鶴)

今回の対策講座では、長崎短大の人間と社会の領域を専門とする教員による対策講座を実施した。西九州短大の教員は、講座の調整や学生への説明、資料準備、Zoomのセッティング、対策講座時の授業補助、学生への意見聴取等を担当した。

対策講座は、全4回実施し、1回目を対面での対策講座、2~4回目は、遠隔(Zoom)で実施した。

対策講座実施前のアンケートでは、介護福祉士国家試験の中で理解が難しいと感じる科目では、「人間と社会(人間の尊厳と自立、人間関係とコミュニケーション、社会の理解)」と回答した学生が多かった。講座に対する期待では、「法律」や「制度」に関するものが多く、「人間と社会」の領域の中で法律や制度の知識が多く求められる「社会の理解」に困難さを感じ、「社会の理解」の問題を理解できるようになりたいとの期待がうかがえた。このことから、今回の「社会の理解」に焦点をおいた対策講座は、学生のニーズにマッチした取り組みであったと考える。

対策講座実施後のアンケートでは、対策講座について、「役に立った」と回答した学生は86%、「まあ役に立った」



と回答した学生は14%であり、今回の対策講座がおおむね効果的な取り組みであったといえる。対策講座の実施回数(全4回)については、「今のままでよい」と回答した学生は51%、「もっと増やしたほうがよい」と回答した学生は43%であった(未回答者2名)。対策講座の時期については、「もっと早い時期がよい」と回答した学生は43%、「今回の時期でよい」と回答した学生は51%であった。「社会の理解」は、制度や法律など理解が難しい問題も多く、対策講座の回数や実施時期については、今後、回数を増やす、時期を早めるなどの検討が必要である。

自由記述では、「ちょっと大きな声で話してほしい」「対面授業がいいと思います」「オンライン授業より対面授業の方がもっといいと思う」などの意見がみられた。今回の対策講座は、全4回中3回が遠隔(Zoom)での授業であった。遠隔での実施時は、長崎短大(配信者)と西九州短大(受信者)の教室をZoomでつなぎ実施した。長崎短大藤島から、対策講座受講者の様子がわかるように、西九州短大の教室にカメラ1台を設置し、教室全体を映すようにセッティングした。しかし、カメラ1台では、対策講座実施者(藤島)から、学生の表情や反応がわかりにくく、対面のように、学生の反応をみながら講義の細かな調整(声の大きさや講義スピード等)が難しかったことが要因ではないかと考える。対策講座では、毎回、西九州短大の教員が補助役として教室に待機しているため、西九州短大の教員が学生の細かな反応をとらえ、対策講座実施者(藤島)に伝える等、教員間の連携強化の必要性を感じた。また、学生が、講義実施者(藤島)にリアルタイムで反応を伝えられるような仕組みづくりや対面での実施の必要性も感じた。

今回の取り組みでは、おおむね効果を感じられた部分もある一方で、実施回数や実施形態等の課題も残す形となった。本講座の反省点や気づきを生かし、今後も両校の連携講座がさらに飛躍していくことを期待する。

## 2) 連携講座の充実に向けて(文責 藤島)

人間と社会の領域は「もっとも難しい」と感じている学生が多く、とくに留学生は勉強していても理解が難しいことが明らかになった。今回の講座では内容的に「よく使われる語句に慣れること」と「関連づけによる知識の習得」を目指した。その効果については概ね良好な評価が得られた。

一方、回数と時期は検討が必要で、とくに実施方式は対面式が望まれている。オンライン方式に比べ、対面式はより習得の度合いを確認しながら進めることができる。人間と社会の領域は難しいと感じている学生が多だけに理解度を確認しながら進めることの重要性が示唆された。

介護分野での西九州短大と長崎短大学の取組みは、作

業療法士の視点を組み入れた生活支援技術の実施<sup>7)</sup>、日本語教員による日本語理解の向上<sup>8)</sup>、そして今回と、お互いの得意を活かして展開されてきた。留学生の入学者が増える中で国家試験の合格率向上を目指し、協力して展開していくことは今後も重要と考えられる。

## 5. 引用文献

- 1) 令和5年度高齢者白書—高齢化の現状と将来像—(オンライン)入手先<[https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2023/zenbun/pdf/1s1s\\_01.pdf](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2023/zenbun/pdf/1s1s_01.pdf)>, (参照日2023.11.8)
- 2) 令和5年度高齢者白書—健康・福祉—(オンライン)入手先<[https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2023/zenbun/pdf/1s2s\\_02-1.pdf](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2023/zenbun/pdf/1s2s_02-1.pdf)>, (参照日2023.11.8)
- 3) 厚生労働省:第7期介護保険事業計画介護人材の必要性について(オンライン)入手先<<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12004000-Shakaiengokyoku-Shakai-Fukushikibanka/0000207318.pdf>>, (参照日2023.11.8)
- 4) 日本介護福祉士養成施設協会:介護福祉士養成施設への入学者数と外国人留学生(平成28年度から令和2年度)(オンライン)入手先<[http://kaiyokyo.net/news/h28-r2\\_nyuugakusha\\_ryuugakusei.pdf](http://kaiyokyo.net/news/h28-r2_nyuugakusha_ryuugakusei.pdf)>, (参照日2023.11.8)
- 5) 厚生労働省:介護福祉士養成施設卒業生に対する国家試験義務付けについて(オンライン)入手先<[http://kaiyokyo.net/member/03\\_kr\\_fu\\_ko\\_gi.pdf](http://kaiyokyo.net/member/03_kr_fu_ko_gi.pdf)>, (参照日2023.11.8)
- 6) 桑原信子・花畑明美・戸敷早苗:介護福祉士国家試験への支援対策,宮崎学園短期大学紀要,Vol12, 72-80(2020)
- 7) 鶴和也・尾村恵子:西九州大学短期大学部との連携講座の効果について~福祉用具のより専門性の高い知識・技術の習得~,長崎短期大学紀要, 34, 99—107(2022)
- 8) 鶴和也・小嶋栄子・藤島法仁・立川かおり・吉村浩美・馬場由美子:介護福祉士養成施設に在籍する外国人留学生に対する国家試験対策講座についての一考察,西九州大学短期大学部紀要, 52, 64—72(2022)